



例会プログラム

1. 開 会 点 鐘
2. ソング「それでこそロータリー」斉唱
3. ゲスト・ビジターの紹介
4. 食事と交歓
5. 会長の時間
6. 出席報告 例会運営委員会
ニコボックス発表 親睦委員会
7. 委員会報告、幹事報告 副会長 間龍一郎君
地区・クラブ研修リーダーセミナー報告 会員増強委員会
8. 卓 話
9. 閉 会 点 鐘

会長の時間

2019-2020年

第62期 中津川ロータリークラブ

会長 吉川 義康



『ようこそ新会員の皆さまへ』

本日、中津川ロータリークラブに新しく入会された方々のご挨拶をいただきます。よろしく願いいたします。

新会員の皆さまは、これからロータリアンとして社会奉仕を実践しながら本業を発展させるという職業人冥利に尽きる体験をされます。これまで本業をきちんと勤めていた日常生活に、これから奉仕と親睦が伴います。

「ロータリーの目的」は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことであります。つまり、企業の根底に奉仕を置くべしとのことです。

これが1905年から今日までの114年間で、世界の200以上の国でクラブ数35,776、会員数1,222,446人までに成長した“ロータリーの奉仕の理念”によるものであります。

ところで、話しは変わりますが、今富士山の噴火対策が動き出していることはご存知でしょうか。富士山の噴火対策が差し迫ったとしたきっかけは2000年から2001年にかけて多発した富士山直下を震源とする低周波地震からです。1707年の「宝永の大噴火」以降に大規模な噴火は起こっておらず、地下に蓄えられた大量のマグマが噴出すれば、大きな被害が広範囲に及ぶ可能性があるとの指摘からです。また、2014年に御嶽山が噴火して、登山客ら約60名が死亡する戦後最悪の火山災害が発生したこともきっかけです。こうした中で、国交省と山梨県、静岡県は2018年3月に「富士山火山噴火緊急減災対策砂防計画」を作成しました。この計画では、富士山の噴火に伴う土砂移動現象として、「降灰後の土石流」「融雪型火山泥流」「溶岩流」の3つを対策としています。降灰の厚さが10cm以上になる土石流危険渓流などのそれぞれに対して集水面積や勾配、流出土砂量を予測して堰堤や沈砂地を整備するものです。富士山噴火に備えたハード整備が始まったのが2018年度からで、国土交通省は2046年度までの約30年間で総事業費890億円を投じ、噴火による土砂災害を防ぐための堰堤などを造っていく計画です。

ところが、富士山は過去にも火山灰や火砕流、溶岩流など、多様な災害を起こしてきましたが、噴火現象やその規模を事前に予測するのは大変難しい。そこで、緊急対策は、火口の位置などがある程度分かった段階で安全に施工できるかどうかを確認し、噴火現象に応じた方法で実施しようとするものです。その時に使用するのが仮設堰堤などの資材として使うためのコンクリートブロックの製造と備蓄であります。コンクリートブロックは人の背丈ほどの大きさで、1個あたり約3トンの重さがあります。これを富士山の17の流域に配置するコンクリートブロック数は2万個に登ります。このコンクリートブロックを750個造る工事が2018年12月から2019年7月までの工期で地元の建設会社が受注しています。